5.4 説明資料・動画作成、海外活動、PR・意見収集活動

5.4.1 説明資料・動画作成

広報活動を行うため、基本計画の内容をわかりやすく周知する説明資料及び動画を作成した。

検討段階の科学技術・イノベーション基本計画をわかりやすく伝え、計画の取りまとめの参考となる意見を引き出すための説明資料及び動画を作成した。

活用シーンは、今年度実施する全国キャラバンやオンラインシンポジウム等のイベントでの議論誘発を想定した。加えて、委託事業終了後（≒基本計画策定後）もイベントやウェブ公開で活用できるような形式・構成とした。

説明資料及び動画は、内閣府ウェブサイトへの掲載[34]、全国キャラバンでの説明等に活用した。

表 5-13　動画の構成

Diver-CSTI －Society 5.0 実現を目指す次期科学技術・イノベーション基本計画の方向性－ 1.　プレゼンテーション「科学技術・イノベーション基本計画～Society 5.0 の実現に向けて～」内閣府大臣官房審議官（科学技術・イノベーション担当）江崎禎英 2.　インタビュー「Diver-CSTI からのメッセージ」 －科学技術・イノベーションの成果をすべての人へ －新たなイノベーションを生み出す環境を整備 －我が国の科学技術・イノベーションを国際展開 －野心的な目標に挑戦 －科学技術・イノベーションの力で社会の諸問題を解決 3.　事後アンケート QR コードとアンケート回答協力依頼

5.4.2 海外活動

次期科学技術基本計画の中間取りまとめ後、次期基本計画の PR と海外の関係者からの多様な意見収集を行うため、国際シンポジウム・会議・ワークショップ（以下、「イベント」とする。）を活用し、欧州、米国、アジアの政府機関や主要研究機関等との意見交換を行うための支援を行った。

具体的には、米国、欧州、アジア地域におけるオープンフォーラム及び研究者や行政関係者、産業界が集まる海外の主要なイベントをピックアップした（表 5-14、表 5-15、表 5-16）。

うち、AAAS 2021 Annual Meeting にて開催される Scientific Sessions への登録申込み支援を実施した。

[34] 説明資料は<https://www8.cao.go.jp/cstp/kihonkeikaku/caravan_koensiryo.pdf>より、動画は<http://wwwc.cao.go.jp/lib_006/diver_csti_movie.html>より閲覧可能。

表 5-14 参画イベント候補（欧州）

No.	会議名	直近の開催日時、場所、申込締切	開催頻度	主催者	概要
E001	University Industry Interaction Conference	2020/6/9-11@オンライン開催	年1回	University Industry Innovation Network (UIIN) and the Finnish Ministry of Education. https://www.university-industry.com/	産学連携実務者が集まる国際会議。2013年から開催されている。
E002	The European Forum for Studies of Policies for Research and Innovation (Eu-SPRI Forum)	中止	年1回	英Manchester Institute of Innovation Research https://euspri-forum.eu/eu-spri-forum-conference-2020-in-utrecht-cancelled/	2010年に創設された、知識創造とイノベーションに関わる、学際的なコミュニティの強化を目的としたフォーラム。Twente大学、マンチエスター大学、フラウンホーファー研究機構、フィンランドVTT等12機関のメンバー機関から構成される。
E003	OpenLivingLab Days	2020/9/2-4 通常開催は中止、遠隔開催	年1回	European Network of Living Labs https://openlivinglabdays.com/	世界規模のLiving Labコミュニティの年次集会。政策担当者、企業、起業家、学者、リビングラボの代表者、イノベーターが参加する。扱うテーマは理論から実践まで多様であり、インタラクティブなパネルディスカッション、ハンズオンワークショップ等もある、
E004	EuroScience Open Forum (ESOF)	延期、近日中に更新予定	2年に1回	https://www.gstic.org/2020/activities/#inspirational-sessions	国際組織EuroScience(ユーロサイエンス)が開催国の政府等と協力して隔年で開催する科学研究、教育、イノベーションに関する欧州最大のオープンフォーラム。世界を牽引する科学者、若手研究者、企業関係者、政策立案者、一般市民等が参加する。セッションやワークショップを中心とした150前後のプログラムから構成される。
E005	European RTI Policy Evaluation Conference	2021年11月18-19日	2年に1度	独Fraunhofer ISI、仏L'IFRIS、the Austrian Platform for Research及び墺Fteval	学際的に研究イノベーション政策について、関係者が集まり議論する場。
E006	EUA Annual Conference	2020/4/16–17@ポーランド オンライン開催済	年1回	European University Association	欧州大学協会（EUA）主催の会議。
E007	Global Sustainable Technology & Innovation Conference （G-STIC）	2020/10/27-29@Brussels、ベルギー ※申込締切の記載はなし	年1回	VITO、ACTS、FIOCRUZ、IITD、TERI	持続可能な開発目標（SDG s ）の達成に向けた世界的な動きを促進することを目標に開催される発表・議論の場。各国の政府関係者、研究者や起業家等出席。
E008	European Research and Innovation Days	2020/9/22-24@Brussels、ベルギー ※申し込み等の詳細はないため、問い合わせが必要	年1回	欧州委員会	ステークホルダーが一堂に会して、将来の研究・イノベーション政策の実現を目指すイベント。
E009	EIT INNOVATION FORUM（INNOVEIT）	掲載なし （前回は2019/10/15～@ハンガリー）	年1回	European Institute of Innovation & Technology	アントレプレナー、高等教育機関の研究者、EUや国、地域の政策立案者、主要なイノベーション関係者が一堂に会する場。
E010	The Transformative Innovation Policy Consortium Conference	掲載なし （前回は2019/11/4 in Valencia, Spain）	年1回	SPRU, U of Sussex http://www.tipconsortium.net/tipc-events/	持続可能な開発目標(SDGS)を達成するために、世界的なリーチ、研究、知識の共創を伴う科学・技術・イノベーション(STI)政策について検討する場。
E011	RTO INNOVATION SUMMIT	2020/11/18 -	年1回	フラウンフォーファー等	imec、TNO、フラウンホーファー他公的研究機関が集まる場。 直近の会合では、The European Green Deal、A Europe fit for a digital age、Industrial competitiveness などが主なテーマ
E012	The 14th International Conference on Research and Innovation	2020/9/16-17	年2回程度	2020年9月にはポルトガルのリスボンで開催	研究とイノベーションのあらゆる側面についての経験や研究成果を交換し共有するために、一流の科学者、研究者が一堂に会することを目的にした会議。

表 5-15 参画イベント候補（米国）

No.	会議名	直近の開催日時、場所	開催頻度	主催者・URL等	概要
U001	Atlanta Conference on Science & Innovation Policy	※2020年については問い合わせが必要	年1回	ジョージア工科大学公共政策学部	科学・イノベーション政策に関して、35か国以上から300人以上の研究者が集まる国際会議。SciSIPのセッションもある。
U002	World Open Innovation Conference 2020	2019/12/10-11@UC Berkeley 2020年も12月開催予定	年1回	The Garwood Center for Corporate Innovation at the Haas School of Business, UC Berkeley https://woic.corporateinnovation.berkeley.edu/	オープンイノベーションが関わる課題について、産業界及びアカデミア（専門家）による講演・研究成果発表の場。2020年は"Leading the Global Recovery: Turning Threats into Opportunities with Open Innovation"がテーマ。 https://woic.corporateinnovation.berkeley.edu/wp-content/uploads/2020/07/WOIC-2020-Draft-Virtual-Conference-Agenda-v7.27.20.pdf
U003	AAAS Annual Meeting	2021/2/11-14 ※申込は7/14〆切、例年とプロセスが異なる。	年1回	AAAS https://meetings.aaas.org/program/	科学、教育、工学、テクノロジーの幅広い分野を網羅する米国で最大規模の学術機関AAASが主催するオープンフォーラム。
U004	AUTM Annual Meeting	2021/3/14–17@シアトル	年1回	AUTM https://autm.net/annual-meeting-(1)/future-annual-meetings	北米を中心に、世界から大学の技術移転専門家が一堂に会する会議。
U005	ST Global Consortium	中止、2021年開催予定	年1回	https://www.stglobal.org/	
U006	AAAS Forum on Science and Technology Policy	Thursday, May 2 - Friday, May 3, 2019。2020は未定（4月または5月）	年1回	AAAS	科学技術政策に関するAAAS主催のフォーラム。研究者とその機関に影響を与える政策問題について取り扱う。
U007	UN Multi-stakeholder Forum on Science, Technology and Innovation for the SDGs（STI FORUM）	2020　5/12-13	年1回	国連 https://www.easst4s2020prague.org/focus-and-themes/	持続可能な開発目標（SDGs）と科学技術との関係を討議する。約1,000名が参画。

表 5-16 参画イベント候補案（アジア）

No.	会議名	直近の開催日時、場所	開催頻度	主催者	概要
A001	ニュー・ワールド・チャンピオン年次総会（通称サマーダボス）	大連など。夏開催 ※情報更新なし	年1回		科学、技術およびイノベーションに関する。世界経済フォーラムによって編成される。トップレベルの研究者や急成長中の企業、政府、メディア、市民団体の代表者が90か国以上から集結する。
A002	Asian Innovation Forum	2019年10月4日@フィリピン 2020年は不明（開催されず）	年1回	Korea Institute of S&T Evaluation and Planning (KISTEP)	韓国KISTEPが主催するイノベーションフォーラム。
A003	Asia Pacific Innovation Conference	2020/10/16-17@INCHEON, KOREA	年1回	各国持ち回り	イノベーションの法的、経営的、経済的側面に関心のあるアジア太平洋地域の学者が一堂に会することを目的として、2010年1月に設立された。イノベーションの研究に焦点を当てたワークショップ、会議、イベントをアジア太平洋地域で定期的に開催している。
A004	South East Asian Conference on Science, Technology and Innovation Policy and Management	2018年より年1回開催、2020年は11月開催	年1回	（マレーシア、タイ、インドネシアの持ち回りと考えられる）	マレーシア、タイ、インドネシアなどの研究者・関係省庁要人が集まる会議。

また、今後予定されているイベント（オープンフォーラム、STI 関係者が集まる主要会議）についても下表の通りリストアップを行った。

表 5-17　今後予定されているイベント候補案

名称	主宰	日時、開催頻度	URL
European RTI Policy Evaluation Conference	独 Fraunhofer ISI、仏 L'IFRIS 及び墺 Fteval	2021 年 11 月 18-19 日、2 年に 1 度	https://fteval.at/content/home/news/
ESOF（EuroScience Open Forum）	EuroScience（非営利組織）	2022 年 7 月 5-9 日 2 年に 1 度	https://www.esof.eu/
European Research and Innovation Days（オープンフォーラム）	EU	2021 年 6 月 23-24 日、毎年開催	https://research-innovation-days.ec.europa.eu/
AAAS Annual Meeting	AAAS	2022 年 2 月 17 日-20 日 毎年開催	https://www.aaas.org/events/annual-meeting/future-locations
The Atlanta Conference on Science and Innovation Policy	米ジョージア工科大学	2021 年（例年は 10 月） 2 年に 1 度	http://www.atlconf.org/

5.4.3 PR・意見収集活動

5.4.1 で作成した説明資料及び動画は、内閣府ウェブサイトへの掲載 [35]、全国キャラバンでの説明等に活用されている。

さらに、昨年度レビュー調査においてインタビューを実施した有識者を対象に、基本計画の検討の方向性が出された段階、パブリックコメントが開始された段階のそれぞれにおいて、メールで意見の依頼を行い、一部からコメントを得た。

[35] 説明資料は<https://www8.cao.go.jp/cstp/kihonkeikaku/caravan_koensiryo.pdf>より、動画は<http://wwwc.cao.go.jp/lib_006/diver_csti_movie.html>より閲覧可能。

6. 第 6 期基本計画及び統合イノベーション戦略 2020 の英訳

統合イノベーション戦略 2020 及び第 6 期計画（答申素案）について、それぞれ、英訳版を作成した。

日本語版の原稿の完成後、図 6-1 に示す通り、日英の科学技術関連用語の辞書作成、英訳、英訳版のチェックの手順で作業を実施した。

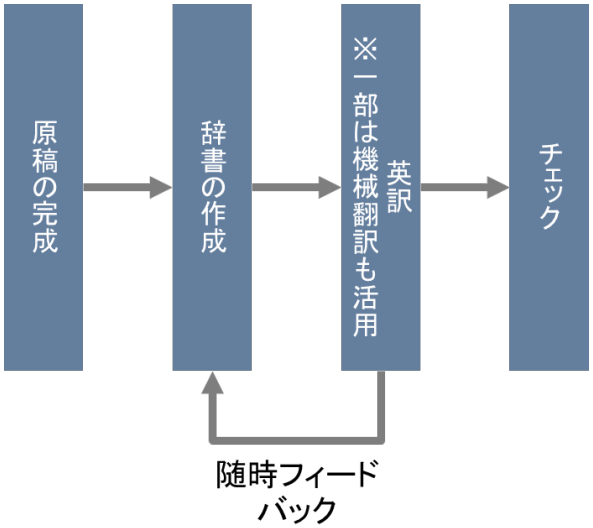

図 6-1　英訳作業のフロー

6.1 日英の科学技術関連用語の辞書作成

法定白書である科学技術白書の日本語版、英語版を対象として、主要な科学技術関連用語、機関名、事業名、法律名を抽出し、日英辞書の作成を行った。

6.2 統合イノベーション戦略 2020 の英訳

閣議決定された統合イノベーション戦略 2020 本文及び概要版の英訳について、専門の翻訳業者の協力を得て実施した。当社では、外注業者が作成した英訳のチェックを行った。

また、英訳後の内閣府内照会及び各省照会における修正意見の反映作業の支援を行った。

6.3 基本計画答申素案の英訳

統合イノベーション戦略 2020 に新たに用いられた科学技術用語等については、日英辞書に追加し、第 6 期基本計画の英訳に活用することで、英訳の精度を上げた。

また、自動翻訳ツール TexTra、翻訳業者の併用と作成済みの辞書の活用による迅速かつ正確な英訳版を作成した。

7. 今後の検討課題

調査全体を通じて明らかとなった、今後検討すべき課題についてまとめた。

7.1 戦略立案の方法論確立

基本計画を含む戦略の立案について、方法論を確立していくこと、その体制を強化していくことが重要である。具体的には、計画に何を記述するかだけではなく、計画をどのような構造で作成するのか、用語体系をどのように定義するのか、ロジックチャートや指標はどのような要件を満たすものとして作成するのか、いつ・どのようにステークホルダーの意見を集約するのかといった点について、今回の取組で得られた知見を方法論として確立して形式知化し、さらに教訓を継続的に学習していく必要がある。例えば、第 6 期のさらに次期の基本計画をどのような時期にどのような手順で検討していくかはこれまでの経験を踏まえて、中身の議論とは別に前広に進めておくことも考えられる。

7.2 基本計画を確実に実行する政策形成の仕組みと体制の強化

基本計画の目的を達成するには戦略や方向性だけではなく、個別のプログラム（施策、資金制度）における工夫や改善も重要であり、政策形成の仕組みと体制の改善が求められる。

政策形成の質的向上を図るために、「研究・イノベーション」のメカニズムを多元的に把握する概念体系を修得した上で、①機関ごとの戦略形成、②確実な実行計画（PART 法等をベースとしたプログラム化の普及）、③「基本計画」の新規重要課題に対しては（インパクトアセスメント手法等を用いる）事前評価を適用、④追跡評価結果を踏まえた新規課題の選抜を常態化、⑤体制としては支援専門機関を整備していくことが重要である。

例えば、研究者の年齢構成、女性研究者の新規採用数、民間から大学への共同研究資金といった目標を達成することを考えて見ても、各々の大学は分野、規模、所在地、現在までの経緯といった条件が異なっており、一律に増加させることは困難であり、実効的でもない。目標水準を達成するためには、それぞれの大学がどこまで達成すれば全体としての目標水準を達成できるのかを明確にして各主体が努力する必要がある。そのためには、上述の①～⑤によって司令塔である CSTI とそれぞれの機関が協調して目標を目指すシステムとする必要がある。

7.3 データベースと指標体系の整備

現状を把握し、適切な政策形成を行うための基盤となるデータについて、データベースと指標体系の整備を進めていく必要がある。ここで、定義についても国際比較も可能なものとして見直すべきものは不断に見直さなければならない。また、統計調査には調査対象時点から公表までに 1 年近く要しているものもあり、現状の把握を困難にしている。行政の DX を進めることによって迅速化することが望まれる。

7.4 要因の調査・分析

計画進捗上の課題について、要因を機動的かつより深く調査・分析する仕組みが必要であ

る。例えば、以下について事例分析、実態調査を体系的に実施することは考えられる。これらの中には昨年度レビュー調査の中でインタビュー調査を実施したものも含まれるが、短期・単発的なインタビューにとどまらず、モデル機関を設定してのデータの収集・分析等も含めた深掘りが重要である。

例）

- 研究時間
- 論文数（国際共著論文等）
- 女性研究者の活躍
- 若手研究者の活躍

7.5 基本計画の PR の強化

基本計画の決定後には、以下の検討が必要である。

7.5.1 若手世代への広報・意見収集機会の実施

全国キャラバンの企画において、特に若手世代を重点的に含めることが考えられる。

7.5.2 SNS による広報実施

Web 上での広報活動において、SNS 運営よりも先に専用 Web サイトや YouTube チャンネルといったアクセスポイントを整備することが考えられる。

7.5.3 海外への PR

COVID-19 の収束見込みが不透明な中、イベントの開催日・形態は流動的と考えられる。そのため、候補とするイベントを絞り込み、準備開始を早め、直接イベントを主催する事務局への問合せを開始し、連絡をとることができる状況にしておくことが望ましい。

日本からの海外渡航ができるかは不透明なため、開催方法は、遠隔会議でのイベントを対象に絞り込むことも検討する。

7.6 行政の DX

基本計画のレビューや策定において、エビデンス等のデータベース整備が進んでいるが、行政内、さらには外部との協業・コミュニケーションに活用できる IT ツールの活用やそのための環境整備（ネットワーク環境等のインフラ整備）をより一層進めるべきである。